

## 効果の上がる学習の仕方「学習の3段階理論」を身に着けよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q <学習の3段階理論>効果の上がる学習の仕方である開倫塾の「学習の3段階理論」とはどのようなものですか。

A (1)私は、学習(勉強)を、「理解」「定着」「応用」の「3つの段階(ステップ)」に分け、それぞれの段階(ステップ)にふさわしい学習(勉強)の仕方を考えました。  
(2)それが、以前から一貫しておすすめている「学習の3段階理論」です。  
(3)これは、開倫塾独自の理論です。ぜひじっくり読んで、少しずつでもOKですから身に付けてください。

Q 第1段階の「理解」とは何ですか。

A 「理解」とは、「うん、なるほど」とよくわかることです。「理解」には、次の3つの場面があります。

(1)「予習」での「理解」

- ①初めて学ぶことは、授業の前に一度ゆっくり声を出して読んで「予習」。
- ②何を書いてあるかを知る。
- ③意味のわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書で調べる。
- ④計算や問題はノートに解く。

(2)「授業」での「理解」

- ①手を机の上に置き、先生の目を見て、お話を一語一語しっかり聞く。
- ②大切なことは、ノートにしっかりメモ。繰り返し読み、覚える。
- ③遅刻、欠席、早退をしない。おしゃべりや居眠りをしない。これらは、理解を著しく妨げるからです。

(3)「復習」での「理解」

- ①学んだことを、もう一度学び直し、「理解」を深めるのが「復習」。
  - ②教科書やノートをしっかり読み直す。
  - ③計算や問題は、もう一度解き直す。
- \*「復習」すると、学んだことが「うん、なるほど」とよくわかり、「理解」が進みます。ですから、必ず「復習」を。

Q 第2段階の「定着」とは何ですか。

A 「定着」とは、一度「うん、なるほど」と「理解」したことを、すべてスミからスミまで正確に身に着けることです。「定着」には、次の3つの練習が有効です。私は、この3つの練習に「定着のための3大練習」と名付けました。

(1)「音読練習」

- ①スラスラとよく読めるようになるまで、大きな声を出して読む練習をする。

②大切なことは、何も見ないでいえるまでにする。

\*これを、「暗誦(あんしょう)」といいます。

### (2)「書き取り練習」

①よく書けなそうな語句は、筆順も含めて、正確に書けるまで繰り返し書く練習をする。

②鉛筆やノート、紙がなければ、手の平に書く練習をする。

\*手で、空に向かって書く練習をする。

③きれいな文字で書く練習をする。

\*硬筆習字も大切です。

### (3)「計算・問題練習」

①一度解き、なぜそのような解答になるかがよく「理解」できた計算や問題は、同じものを何回も解き直し、条件反射で正解が出るまで練習をする。

②「 $2 \times 3 = 6$ 」のように、パッパッパッと正解が出るまでにする。

③大切な計算や問題ほど、この練習を繰り返してくださいね。

\*「練習は不可能を可能にする」。この「定着のための3大練習」は、不可能を可能にします。学力を身に着けるのに絶大な威力を発揮します。ぜひ挑戦を。

## Q 第3段階の「応用」とは何ですか。

A 「応用」とは、「理解」「定着」したことを「活用すること」、「役立てること」です。「応用」には、「理解」「定着」させたことを「テストで役立てる」と「社会で役立てる」という2つの場面があります。

### (1)＜テストで役立てる＞

①これは、「理解」「定着」したことを用いて、「テストでよい点数(定期テストでは100点満点、入学試験や資格試験では合格点)を取る」ことです。

②それに役立つのが、試験で過去に出た問題(過去問)や「予想問題」を何回も、できれば5～6回以上解いてみることです。

③「間違いノート」や「まとめノート」を作ることもおすすめです。

### (2)＜社会で役立てる＞

①社会に出てからが本当の勉強です。

②仕事や社会的活動をするために、よく生きるために、人生を充実させるために、「理解」「定着」させたことを役立ててください。

③そのために、学校で学習した教科書や教材、辞書、ノート、自学自習した本は決して処分しないこと。「宝物」のように大切にし、一生涯身近に置いて繰り返し学び直しましょう。

## Q <何のために学ぶのか>人は、何のために学ぶのでしょうか。

A (1)それは、「多様な選択肢のある人生を歩む」ためではないでしょうか。人は、「自覚」を持ち、「自分から進んで、主体的に学べば学ぶ」ほど、「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができます。

(2)「正常に機能する社会の形成に貢献する」ことができます。

(3)また、「自立」に向けた「自信」を育て、自分自身を大切な「価値」あるものと「自己評価」し、充実した人生を歩むことができると考えます。